校友時報

昭和58年4月21日
編集人兼発行所
秋田県能代市高塙2番1号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所 ㈱大勝堂印刷

季節の窓

風が吹き
草木が目を覚す
鳥がさえずり
人々が
人生という旅を始める

ペンネーム　瀬田　杉（三年）

入学式

期待と不安の中で

能高健児の気骨を

高塙に吹く風の冷たさも和らぎ、山々が緑に染まりはじめた今日この頃。四月六日午後一時より本校の昭和五十八年度入学式が、第一体育館に於いて挙行された。

入学式にふさわしい絶好の日本晴れで、あたかも新入生を盛大に歓迎しているかのようであった。校門をくぐる新入生は期待と不安の入りまじった、それでもはつらつとした表情であった。

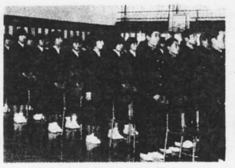
式は、父兄・職員が見守る中、ブラバンの演奏をバックに新入生の堂々たる入場で始まった。（開式の辞）（君が代斉唱）（呼名）のあと、校長先生の式辞と続いた。その中で、

1、生き方、進路について真剣に考え行動してほしい。

2、勉学する習慣を身につけてほしい。

3、友情を大事にしてほしい。

という三つを強調され、二つめの勉学に対しての姿勢、その大切さなどについては、特に強調されていた。それに対し新入生代表の佐藤誠君が、文武両道を目ざすという、今後の能代高校生としての決意を宣言した。ひき続き（校歌斉唱）（閉式の辞）となり、厳格な雰囲気の中で行われた入学式は、新入生退場で終了した。



入学式ふうけい

入学式終了後、新入生は心境を次のとおり語っていた。

○うれしい。楽しい、わくわくしている。

○緊張した、こわかった。

○実感がわかなかった。

○能高生としての実感がわいてきた。

○とても不安だった。

○女子が少ないと思った。

等々。うれしさの中には、不安があり、少しずつではあるが、能高生としての実感がわいてきたということであろう。

また、これより先三月二十九日に行われた大学説明会に出席した際のインタビューでは、本校入学の目的として、大学進学を挙げた人が大多数であった。やはり能代高校は進学校としてのイメージが強いようである。また、部に加入するかという質問に対しては、『わからない』『入らない』という答えが圧倒的に多かった。

本年度の新入生の印象は、少しおとなしいようである。部に加入したいと希望する人も極端に少ない。ぜひとも一人でも多くの人が部活動に参加し三年間がんばってほしいものである。また、二、三年生は、良き先輩として一年生を指導し、文武両道の能高健児の気骨を、受け渡してもらいたい。

なお、本年度の新入生は、三百二十八名。うち八十一名が女子となっている。クラス編成はD組だけが四十六名、あとは四十七名であり、C組が男子クラスである。

「邂逅と祈念」

新校長　平野　清太郎

恵まれた自然環境と多くの可能性を秘めた生徒のいる本校へ再び赴任できた私は、大きな喜びと同時に責任の重大さを痛感しております。五十有余年の間、先輩が栄々として築きあげてきた伝統をふまえ、新しい時代に即応できる教育を進めてまいりたいものと考えております。

私はこのようなことを基盤にして、この機会に生徒の皆さんに対し、次の三つのことを希望しておきたいと思います。

その希望の第一は、一人の人間として自分の行動に責任を持った生活をしてほしいということであります。

自分の行動に責任を持つということは、正しい判断力をもって、自分を律することであり、他人に迷惑をかけないようにすることです。そうなれば、今世間をさわがしているような暴力やバイクによる暴走、さらに飲酒、喫煙等の不名誉な問題も姿を消すことになるでしょう。

第二の希望は、勉学に打ち込む生活習慣を身につけるということです。

皆さんは、義務教育を終了し、さらに高い学問、知識、教養を身につけ、人間として立派に成長するため高校に入学したわけですから、まず勉強を第一に心がけることは当然であります。福沢諭吉先生は「心訓」の中で「世の中で一番みじめなことは人間として教養のないことです」と述べています。「学ぶ心」を持ち続ける高校生であってほしいものです。

第三の希望は、友情を大事に育ててほしいということです。

学校は学問を修得する場所であると同時に、良い友達をつくって互に切磋琢磨する場所でもあります。高校時代によき友を求めよ。

この大事な友情は、特に部活動を通じて育つことが多いので、沢山の生徒が部活動に参加し、これからの長い人生を支えてくれるに足る確かな友情を築くと共に、文武両道を求める本校の伝統をさらに発展させてほしいと思います。

教育という仕事は「邂逅と祈念である」ともいわれておりますが教師・生徒・父母それぞれの出会いの中で、より豊かな人間への達成を祈念して真摯な努力を続けたいものと考えるのであります。

新年度にあたって

会長　鍋谷　昭

十月に会長に就任してから半年が過ぎました。何もわからなかった半年前に比べると、何とか失敗せずにやっていけるようになりました。

先日、予算編成のことでクラブ代表を集めることがありました。この時の出席数が半数にも満たないようなありさまでした。会議を開こうにもいっこうに人が集まらない。生徒会に関心をよせてくれる人が本当に少ないとしみじみ感じました。そこで、新年度になったのを契機に、生徒の関心を高めるようにするべく、一、二年生を執行部へ大量に引きぬこうと思っています。

またそれが、僕の計画している能高祭をアカディミカルなものにすることと、59インターハイの対応につながると思います。

能高祭をアカディミカルなものにするのは、毎年同じような内容が続き、マンネリ化しているのを打破しようとするものです。そのなかみとして例年無用の存在となっているテーマを、能高祭の方向を打ちだせるようなものとしての意味を持たせること。それに、HRデコ・クラブデコの充実、ステージ部門の多様化、などが主なもので、これ以外にも細部にわたって変革させて、能高祭をさらに大きな催しとしていくつもりです。これを成功させるためには、皆さんの協力が必要なのです。

あと59インターハイへの対応として、一、二年生を中心として近々プロジェクトチームをおく予定です。能代では男子のソフトボールが行われるだけですが、それだけに絶対失敗しないようなチームを作るために多くの人達の協力を求めると思いますができるならば、自らすすんで企画していくような人材が多く執行部へ入ってきてくれるよう願っています。

新入生へのメッセージ

本校に入学したばかりの新入生諸君に、学校行事、通学方法、校舎について紹介します。

行事

五月上旬　校内体育大会

バレー・バスケット・リレー（百五十M×十一人）・ソフト・サッカー・卓球の六種目で競う。クラスの名誉をかけて頑張るのである。

五月上旬　遠足

体育大会と前後して実施されるので多少ハードだが、若い一年生はなんのその元気にはしゃぎまくります。

五月中旬　生徒総会

六月中旬　能高祭

最も重要な行事である。内容もバラエティに富んでおり、工夫が見られる。前夜祭ではのど自慢、HRデコでは、お化け屋敷、夜みせ、ライブ喫茶なども昨年はおめみえした。個人デコでは、自称、「格闘技研究会」の面々が繰り広げるプロレスごっこが毎年人気を呼んでいる。

九月上旬　十里強歩

男子四十キロメートル、女子二十キロメートルをゴールを目指しひたすら走る（歩く）行事である。自転車、バスその他各種の交通機関に頼る我々現代っ子にとり極めて過酷な試練と言えよう。

校舎について

本校の校舎は三階建てで校庭には自在の像が立っている。校舎の隣にはセミナーハウスがあり、ここには宿泊設備が整っており、また茶道ができる部屋も備わっている。毎年、春から夏にかけての部活動の盛んな時期には合宿が行われている。食堂は三時間目の休み時間からはじまり、食事はセルフサービスである。休み時間には生徒でにぎわっている。この校舎には少し不便な点がある。その一つはセミナーハウスの横にゴミ捨て場があるが校舎の外にあり、また教室から少し離れているので冬場や雨降りの日などは大変だということである。もう一つの不便な点は三階の教室から管理棟へ行く場合、いったん三階から二階へ下がってから行かなければならないのである。三階から通路はあるものの何のためにあるのか、またどんな時に使うのかなどわからない点が多いのである。

通学方法

能代高校は、周囲は田んぼに囲まれ、静かで、空気もきれいで、自然環境がとても良いのですが、町から離れているため、通学にはかなりの困難が強いられてます。でもそれを乗り超えてこそ能高生として過ごしていけるのです。では、毎日の日課の一つである通学について説明しましょう。

まずオーソドックスなのが徒歩でしょう。健康にはいいし、お金もかからない。その上、本校の行事の十里強歩の練習になります。でも寝過ごしたり、通学距離が長すぎれば困ります。

これを克服する方法に自転車があります。本校の大部分の生徒はこれを利用しています。経済的であり、時間に縛られることもないのでとても便利です。しかし、二キロメートル以上の通学距離でなければ許可がおりないし、風の日は向かい風に悩まされ、雨の日は傘を使ってはいけない。冬場は、積雪や道路の凍結があると、使用禁止となります。

次にバスや列車があります。今のところバスは、中和線、柳町新道線、東能代行きの三路線がスクールバスとして出ています。冬場や雨の日はこれを利用すれば、いまわしい雪、寒さ、雨、風から逃れられて便利です。しかしその分運賃を払わなければいけないし、発車時刻も決まっているので、使用するときは注意が必要です。

この他に、列車——自転車、列車——バスという組み合わせもできます。

能代高校の思い出

前校長　渡辺　敏雄

二年間の短い在職期間ではあったが、思い出はいろいろある。

その一つは、何といっても、四十キロ強歩である。私も学生時代に、大宮マラソンといって東京―大宮間を走らされた経験があるが、深夜の強歩大会は、日中のマラソン競技とはちがった独特の熱気があって、忘れがたい。

特に、桧山から森岳までのあの起伏の多い道は、江戸時代羽州街道とよばれたもので、古川古松軒という旅行家の書いた「東遊雑記」という本にも出てくる道である。そこを夜、くるまで走ることがあろうとは思ってもみなかった。もっと若くて、生徒諸君といっしょに走れたら一層すばらしかっただろうと思う。

心に残っている二つめのことは、昨年暮、三年生へひとクラスずつ自習時間をもらって話をしにいったが、あるクラスで、話を終えて廊下に出て、出席簿を持ってきてしまったのに気づいて、ちょうど教室から出てきた生徒に返そうとしたとき、「ありがとうございました」と礼をいわれたことである。

能代高校は昔から蛮カラの評判が高い。いまでもその名残りがあって、校舎はきたないし、あいさつも励行されていない。生徒諸君も、こころは純真なのであろうが、おそらく表現力が豊かでないせいで、ぶっきらぼうである。私も、形よりも心が大切という気持ちから、格別あいさつなどをすすめはしなかった。それなのに、礼をいわれてうれしかった。

軟式野球の全国優勝、硬式野球の東北大会優勝、新緑のころの学校の四囲の風景の美しさ、「まぼろし城」とよばれるほどの冬の吹雪のすごさ等々、思い出は多いが、一々詳しく余裕はない。すべてが忘れがたい。

能代高校の生徒諸君に告げたい。青春は短かい。諸君の一人一人が、自己の人生の全行程を視野に入れながら、青春を存分に燃焼されることを、私は心からねがっている。

三角点

▼ここ数年、家庭内暴力、校内暴力、自殺などと青少年をめぐるショッキングな事件がおこりあとをたたない。特に中学・高校生の校内暴力は欧米先進国でも大きな社会問題となっており、毎月教師一万人が被害を受けているという▼わが国でも今年に入ってからすでに数件の事件がおこっている。男子中学生グループによる〝浮浪者襲撃事件〟東京の忠生中学でおこった〝教師の復讐事件〟などが特に注目をあびた。前者は自分達の欲求不満の解消として、なんら抵抗することのない浮浪者に、殴る・蹴るの暴行をはたらき、ついには殺してしまったものである。後者は、ここ数年段々エスカレートしていく校内暴力に、とうとう中学校教師が自分の身を守るために、相手の生徒をナイフで刺し、傷を負わせてしまったものである▼また最近、全国的に高校中退の傾向がでてきている。そしてその数は年々増えつつあり、秋田県も例外ではない▼中学・高校を今の様な姿にしてしまった原因は何なのだろうか。学歴社会、受験戦争から生まれた同世代間の対話の不足、欲求不満。両親の共働きなどにより、生徒の下校時に家で待っている家族のいない〝カギっ子〟が全体の半分近くを占めていること。親が子供に手をかけすぎることによる子供の身辺自立の遅れ。そして反対に子供の教育やしつけにまるで無関心な親の増加。また、ことなかれ主義、秘密主義の管理職が多いことなど、数えればきりのない程にこの様な現状をつくった原因がたくさんころがっている▼今こそ生徒も親も教師もこの状態を反省し、そして改善するために本気になって行動をおこすべき時ではないだろうか。今の私達生徒にとって大切な事は、なぜ高校に進学したのかをもう一度考えてみることだ。それぞれ目的をもってきたはずである。それを見失うことなくそれに一歩でも近づくよう努力すべきではないだろうか。